製造業のビジネスチャンスが見える モノづくり最新情報サイト じゃぱんお宝にゆ~す

https://japan.otakaranews.com

じゃばかお至にゆ~す

モノづくり現場の未来を見つめる 製造業応援サイト じゃぱんお宝WEB新聞 最新情報満載!好評配信中!

igus

モーション・プラスチックに新たな可能性

注目の新商品・新提案!高機能素材開発!サステナビリティ・循環型企業への取組!

イグス本社(ケルン) *⇄* 東京 *⇄* 韓国 = ON LINE

イグス(日本)設立30周年

イグスは先頃、ドイツ・韓国・東京をオンラインで結び「2021年 プレスカンファレンス」を開催し、新製品や新提案、最新動向、今後の取り組みを発表した。

はじめにイグス日本法人の北川邦彦 社長が、日本法人設立30周年について 報告した。

イグスは、1964年にドイツのケル 出張技 ンで設立。1986年に株式会社キャプ 立当社 テンインダストリーズが日本国内でイ 在では グスの製品を販売開始したのを契機に、 擁し、 1990年にキャプテンインダストリー 独自の ズと合弁会社イグス・ジャパンを設立。 いる。 2003年に株式会社イグスを独日両国 に設立し、イグス・ジャパンを移行。 翌2004年に東京・錦糸町に移転し、 イグスドイツ本社の100%子会社となっ 品に属する

日本国内では、キャプテンインダス



30 years igus Japan

トリーズ協力のもと、独自の営業活動を展開。2013年には組み立て、WEBを活用した販売拡張、さらに技術支援、出張技術支援、組立設置請負など、設立当初3名でスタートした同社は、現在ではおよそ160名(日本)の従業員を擁し、ユーザーの様々な要求に応え、独自の販売・サービス体制を確立している。

独自の高機能素材開発

同社の強みは、幅広い産業分野の製品に応える様々な高機能モーション・プラスチック製品を素材から研究・開発、加工してユーザーに供給する。



イグス株式会社(ジャパン) 北川邦彦 社長

同社が提供する製品群は、いずれも 素材自体に潤滑性、耐久性、あるいは 柔軟性などの独自の高機能素材特性を 兼ね備え、顧客が製造する製品の高付 加価値化に寄与する。

独自の営業・サービス

また、同社の強みは営業・サービス 面でも独自の体制を構築している。

同社は、ドイツ本社内に大規模なショールームを設置。いち早くWEBを活用し、世界中のユーザーがどこからでもアクセスでき、同社の新製品や新提案を直接確認することが可能な"イグスバーチャル見本市"ブースを開設するなど、最新情報の可視化を構築し、リアルタイムに情報発信している。

バーチャル見本市ブース

"イグス バーチャル見本市"ブースでは、同社の専任スタッフが新製品の特長や新提案を解説するほか、顧客が抱える改題解決や技術相談にも真摯に対応する。

さらに独自のデジタルサービスを開発し、製品の寿命予測を可能にするなど、顧客の知りたい情報がリアルタイムで確認可能な体制も構築し、迅速に対応している。こうした取り組みは、直近のコロナ禍における新たなビジネスタイルとして注目され、東京都から感謝状も贈られている。

北川社長は、「イグスの企業文化の バックボーンは、弊社がソーラーシス テムで、お客様が太陽。われわれは今 後もお客様の周囲を回りながらお客様 の課題や要求にお応えしていく」と強 調した。

(次頁に続く→)



igus

モーション・プラスチックに新たな可能性

イグス本社(ケルン) *⇒* 東京 *⇒* 韓国 = ON LINE

"技術を上げて、コストを下げる"

最新情報を可視化したイグス バーチャル見本市ブース

続いて、ドイツから経営責任者の1 人であるArtur Peplinski(アーチャー・ペプリンスキー)氏が、本社の"イグスバーチャル見本市"ブースからオンラインでイグスの最新動向を報告した。

アーチャー・ペプリンスキー氏によれば、イグスは昨年1月に中国の子会社からロックダウンを行わなければならないという情報をいち早くキャッチ。旧正月が延期され、数週間後にはヨーロッパにもやって来ることを予測していたという。

同社はその時点で社員が在宅で働く 氏にことができるよう、技術的な設定を含 命でめた準備を進め、3月にはリモートに げるよる在宅勤務を実施し、オンラインで おしユーザーの要求に迅速に対応している。 す。

"イグス バーチャル見本市"ブースは、ユーザーが1対1で訪問すると、イグスから2名の専任スタッフが参加。営業は自宅から、製品担当はケルンの展示ブースからリモートで参加し、ユーザーの対応にあたる。

ユーザーは1人でも、グループでも 参加可能で、これまで一度に最大30人 のユーザーに"イグス バーチャル見本 市"ブースから新製品のプレゼンテー ションを実施するなど、調達や設計な ど複数の部門向けに同時にプレゼンを 実施したこともあるという。

アーチャー・ペプリンスキー氏は、 「お客様は、新しい製品やコスト削減 の可能性に関する最新情報をどこから でもアクセスして確認することが可能 です」と強調した。

技術を上げて コストを下げる

さらに、アーチャー・ペプリンスキー 氏は、「私たちはこのブースから、使 命である"技術を上げて、コストを下 げる"、それをこの限られた 状況下に おいてもお伝えしたいと考えておりま

先日の日本で開催されたJIMTOFオンライン展示会でも、ここケルンより早朝の合同プレゼンテーションを実施し、工作機械など多くのお客様にバーチャル展示ツアーを行い、日本の同僚と共に新提案をご紹介し、コストダウンの可能性を紹介しました。互いに協力し、日本のお客様に非常に良いプレゼンを行い、その後数カ月にわたって素晴らしい結果をもたらしました。

最近では、カナダ・ドイツ・フラン



イグス 本社 インターネットマーケティングのアレクサさん

ス・日本・メキシコ・ポーランド・アメリカ・その他にこの展示ブースから13,000を超えるこうしたガイドツアーを行っています。

先ほどお伝えした通り、1回に30人が参加するプレゼンもあり、ここ数カ月で4万人を超えるユーザーがケルンのツアーに参加しています」。

世界各国にショールーム 数カ月で10万人以上が来場

規模の違いはあれ、他の支社でも 類似したショールームを世界中に設営 しています。例えば、米国では500㎡ 近くのブースを設営するほか、ベトナム、シンガポール、中国、台湾、ポーランド、スイス、その他ヨーロッパなど、イグスの支社がある多くの場所にブースがあります。他国でもその国独自の展示会やショーを開催し、わずかな技術的準備でプレゼンテーションを実施しています。

このほか、WEB上のバーチャル展示会も実施しています。例えば、社員は家に居ながらバーチャル展示会でお客様と繋がり、ブース内を案内することができます。

WEB上のブースでは、写真をクリックすると動画で製品を紹介します。 お客様を含むすべての人は、ご自身でこのWEB上のブースを見て回ることも可能です。

バーチャル展示会は直感的に理解でき、一人でも簡単にご利用いただけます。現在までにWEB展示会に5万5千人を超える訪問があり、ライブショーとWEB上の訪問を合計すると数カ月で約10万人のお客様に当社のプレゼンテーションをご覧いただいたことになります。

皆様がまさに今参加されているこれ らのライブイベントは現在ほぼ毎週、 何らかの形で行われています。

これまで多数開催しましたが、先ほ ども申した通り、非常によい雰囲気で もっと開催したいと思っております。

私たちは実際にライブでイベントができ、製品を見せることができます。その場で質問することも可能ですし、答えることもできます。これは実際のリアルな展示会に非常に近く、お客様に近づくことができます。そのため世界中の同僚と共に多くのライブイベントを開催しています。(Vol.148に続く)

